

## 令和二年七月豪雨に伴う 災害に対する日本銀行の 対応

▼令和二年七月豪雨に伴う災害により被害を受けられた被災者の皆さまに対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

▼日本銀行では、各地の財務局等とともに、令和二年七月豪雨に伴う被害により災害救助法が適用された山形県、長野県、岐阜県、島根県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、鹿児島県の金融機関等に対し、預金通帳や印鑑を紛失した場合における預金の払い戻しなどについて、適切な措置を講じるよう要請しました。

## 「決済の未来フォーラム」 を開催（二月・五月）

▼日本銀行決済機構局では、二月二十七日に、「決済の未来フォーラム」中銀デジタル通貨

と決済システムの将来像」を、五月十三日に、「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会」をそれぞれ開催しました（後者は電話会議形式）。両会合には、業界団体、金融機関、ノンバンク決済事業者、シンクタンク、学者、官庁等、広範な方々が参加され、活発な議論が交わされました。

▼昨今、Teedoon社が発行を検討している「リブラ」など、デジタルマネーを巡る諸問題に対する注目が高まっています。

こうしたことを踏まえ、二月のフォーラムでは、「リテール決済（個人間あるいは企業と個人間の決済）」、「ホールセール決済（銀行間の決済）」、「クロスボーダー送金（国際送金）」という既存の三つの決済サービスの問題点をどう改善していくべきか、また、中央銀行が発行するデジタル通貨（CBDC）

＝ Central Bank Digital Currency)

発行の利点やリスクをどう考えるかを議論しました。

▼冒頭、あまみやまよし雨宮正佳副総裁は開会の挨拶の中で、決済システムとマネーについての展望や、CBDCの発行における論点などを提示しました。その後、フロア討議を行いました。

▼リテール決済については、複数の決済手段間で十分な連携ができていないことが、消費者の利便性を損ねているとの指摘がありました。

その解決策として、例えば、①これまで金融機関しか参加し



雨宮副総裁による開会挨拶（撮影：中島美沙）

ていない全銀システムへのノンバンク決済事業者の参加、②銀行とノンバンク決済事業者が参加する新たな決済システムの構築、③銀行券の代替としての一般利用を目的としたCBDCの発行、などについて議論されました。CBDCについては、期待の声とともに、民間との競合の問題や技術的な課題を指摘する意見が聞かれました。

▼ホールセール決済については、新しい技術（注1）を活用した新たな決済基盤の構築や、それを起点としたさらなる技術革新の可能性などについて複数の見解が示されました。また、即時グロス決済システム（注2）の稼動時間延長等、既存の決済システムを改善する方法の利点も示されました。

▼クロスボーダー送金については、国内の送金と比べて、手数料が高い、送金に時間を要するなどの課題がある中で、その背

景や改善に向けた取り組みについてさまざまな認識や見解が示されました。

▼また、五月に開催したクロスボーダー送金分科会では、国際送金にかかる国際的な規制・監督の在り方や、新しい枠組みだけでなく、既存の取り組みやインフラの活用・向上(注3)が国際送金の改善につながり得るとの意見が聞かれました。

一方、日本から海外への少額送金事業については、サービス提供者も相応の費用を負担しており、こうした少額送金事業単体での収益化が難しいとの指摘がありました。その背景には、国際的な要因のみならず、日本固有のビジネスモデルや決済システム構成、事務カルチャーなども挙げられ、今後の継続的な議論の必要性がうかがわれました。

▼「決済の未来フォーラム」の議事要旨などは、日本銀行ホームページ

ムページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。



(注1) 分散型の(集中管理しない)、デジタルに記録される取引台帳の技術。

(注2) 中央銀行における金融機関間の口座振替の手法の一つで、金融機関から中央銀行に口座振替指図が持ち込まれ次第、一つ一つ直ちに決済が実行される仕組み。

(注3) 送金の際に標準化された電文メッセージの利用拡大などを指す。

### 決済機構局内に「デジタル通貨グループ」を新設しました

▼日本銀行では、二〇二〇年七月、決済機構局内に、決済システム全体のデジタル化と中央銀行デジタル通貨(CBDC)に関する事項を所掌する「デジタル通貨グループ」を新設しました。

### 「おうちで、にちぎん」(オンライン本店見学)の公開開始について

— 本店新見学コースの3D・VR映像を初公開 —

▼日本銀行では、展示を拡充し



た上で、本年春頃に本店本館(国指定重要文化財)(注1)の見学を全面再開する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、延期しています(本店見学の最新の情報に



## 編集後記

■コロナ禍の中で学校は短い夏休み。帰省や旅行もしづらく異例の夏でしたが、近所の商店街の気になるお店など、地元の魅力を再発見する良い機会になったように思います。ただ、4月に休業したまま廃業になったお店も散見され、行列だったのに……と残念な気持ちは否定できません。一方で、すし屋やフランスベーカリーの新規開業もあり、人間の営みのダイナミズムを感じます。

さて、今号のインタビューでは、声優界のレジェンドともいわれる野沢雅子さんにご登場いただき、声優という仕事にける思いや魅力、喜びを語っていただきました。対談では、クラシックの枠を超えて活躍されているバイオリニストの川井郁子さんに、楽器や楽曲の魅力、今後の活動の方向性をお伺いしました。それぞれの道を究められたお二方、奥深いエピソードが満載です。

新潟県の十日町市は、縄文ファンにとって聖地。土器の火焰からはある種の生命力を感じます。太古の時代から雪深いなかで受け継がれてきた地域の創造的な土壌が、今世紀において大地の芸術祭をもたらしたともいえるのではないのでしょうか。(林)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([https://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2020年秋号  
編集・発行人 林 新一郎  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 文唱堂印刷株式会社  
禁無断転載

については、日本銀行ホームページをご確認ください。▼こうした中、ご自宅等から日本銀行本店の新見学コース(注2)をお楽しみいただけるよう、3DやVRの映像を活用したオンライン本店見学「おうちで、にちぎん」を、六月三十日(火)より公開しました(注3)。パソコンやスマートフォンから3Dビューを楽しめるほか、スマー

トフォンとVRゴーグルがあれば、VR体験が可能です。

▼この機会にぜひ日本銀行ホームページの「おうちで、にちぎん」にアクセスして、日本銀行本店の新見学コースを存分にお楽しみください。

(注1) 日本人建築家による最初の国家的近代建築。欧米の銀行建築を学んだ辰野金吾による古典主義様式で、明治二十九年(一八九六)

に竣工しました。

(注2) 新見学コースの内容については、広報誌にちぎん2020年夏号(二〇〜二四ページ)をご覧ください。



(注3) 映像の作成に当たっては、一般社団法人VR革新機構が行う、新型コロナウイルス感染症の影響により休館している施設へのボランティア撮影の取り組みを活用しました。

子ども向け  
学習用資料リンク集を  
リニューアルしました

▼日本銀行では、「お金」や「日本銀行」などについて学べる資料や、日本銀行本店で実施していた親子見学会の一部をご自宅で体験できるコンテンツ等をホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

